



アーティスト
久保田沙耶さん

アート作品として「私たちは大きな流れの中の一部にすぎない」ということを体感できる場所にしたいと思いました。漂流物が多い粟島、社会の運搬物である郵便、そして漂い歩く人間。それらが漂流し、たまたまたどり着いた場所、粟島漂流郵便局。日本最古の海員学校があった風土が作った「繋がらなくてもお互い別々だからこそ良いこともある」という粟島の人の持つ強さを感じるにつけて、漂いを長く体現する場にしたいと感じました。

漂流郵便局ホームページ
<http://missing-post-office.com/>



①波打ち際をイメージして作られた漂流私書箱 ②漂流した手紙を読み訪れた人たち ③TV取材を受ける中田漂流郵便局長



いつかの どこかの だれか宛
いつかここにやってくる あなたまで

人生の悲喜交々を癒やす

漂流郵便局

昨年秋に粟島で開催された瀬戸内国際芸術祭で、芸術家の久保田沙耶さんのアートプロジェクトとして開催された「漂流郵便局」。ここでは、届け先の分からない手紙を受け付けており、来た場した人はそれらの手紙を読むことができます。手紙は、「過去・現在・未来」へ、「もの・こと・ひと」へ、何宛でも受け付けています。芸術祭が終わった今でもたくさん手紙が届き、10回の再開局で県内外から440人が訪れました。その漂流郵便局の局長、中田勝久(80)さんに話をうかがいました。



▲届いた手紙を漂流私書箱へ漂わせる中田郵便局長

「瀬戸芸の終わりには400通だった手紙は、メディアでたくさん紹介されたこともあり、主旨が浸透し、現在4倍以上の1,800通までになりました。もともとは、ボトルに宛先のない手紙を入れ、海に放つ、「漂流物」というイメージ。誰もが胸の内に秘め

た思いをもっていて、それを誰かに聞いて欲しい、そんな願いがあるんだと思います。想いを文章にすることで、気持ちが整理でき、癒やされるのではないでしょう。手紙を送ってくれた皆さんからも『機会を作ってくれてありがとう。気持ちが楽になりました』と

いう言葉をいただきます。多いんですよ、そう言うってくださる方、ほんとに。どこばりと言えん気持ちや、言っておけばよかったなという後悔の気持ちを書いて、それを、誰かが読んで、共鳴してくれると、書いた人の気持ちが少しでも報われるんじゃないかなと思います。

ここでいると、いろいろな人生に出くわします。深い入りはできませんけど、一緒に気持ち共有できるから、お友達になった気持ちになりますね。楽しくもあるし、元気をもらうこともたくさんありますよ。

瀬戸芸期間中、奥さんの誕生日にここを訪れたご夫婦がハガキを買って帰ったのですが、そのご主人が年明けに急に亡くなり、その時に買ったハガキにご主人宛てた手紙を書き、送ってくれた女性がいます。春に再開局したときに見えられ、ハガキを探し出し、『あ

りました』と喜ばれ、『元氣出してください』、『前向きにがんばります』と握手をして別れたことがありました。その後も何度か手紙を出してくれ、またそれを見に、足を運んでくれます。その方は、ここに手紙を出す理由を、『やり場のない想いを本人に宛てられるから』『文章を書くことで自分の気持ちの整理ができるから』と話されていました。そして、その届いた手紙を自身でまた読みに来るのは、その書いたときの気持ちを確認し、そのときの自分より成長できているかどうか、確かめたいという思いからだそうです。これからも、人生の悲喜交々が詰まった、皆を癒やすこの郵便局を守っていきたいですね」

漂流郵便局は、毎月第2・4土曜日の午後1時〜4時まで開局しています。▼問い合わせ 産業政策課 ☎73・3013

手紙を読んで
旅のメインは粟島の漂流郵便局。メディアで知って県外から訪れた皆さんの中には、本市に初めて足を運んだ人も多くいました。

福岡県宮若市 三嶋智彦さん・美穂さん
郵便局員 をしています。手紙を出す人が少ないと言われていた今でも、出した人はこんなにいるんだと感じました。亡くなった人への想いや看病中の心残りを綴る手紙などがあり、体験はしてなくても、気持ちがなんとなく共有できるからでしょう。私たちが悔いのないように生きていきたいと思えました。

福岡県糸島市 鳥巢翼さん・涼子さん
船に乗って離島に渡り皆の想いを知る。ロマンがあったいなと思えました。手紙を読むことで、いろんな人の日ごろ口に出して言えない感情を知ることができて、人間

を好きになります。また、皆さんの人生の一端に触れることで、自分の勉強にもなりました。

千葉県 松戸市 小林枝里子さん

どうしても自分の目で見てみたいと、一人旅で訪れました。自分の人生の反省にもつながり、両親や近い人に素直な気持ちを伝えられるときに伝えていこうと思えました。帰ったら私もここに周りの人への感謝の気持ちを書き、送りたいですね。手紙に認め形に残すことが、自分への確認、戒めになるような気がします。



手紙を出したい人はこちら

1. 送った手紙の返却はできません
2. 手紙の著作権は当郵便局に譲渡されます
3. 差出人の住所は不要です

〒769-1108
三豊市詫間町粟島 1317-2
漂流郵便局留め



漂流郵便局はアートプロジェクトであり、日本郵便との関連はありません。